

第7回インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション審査員・教員アンケート

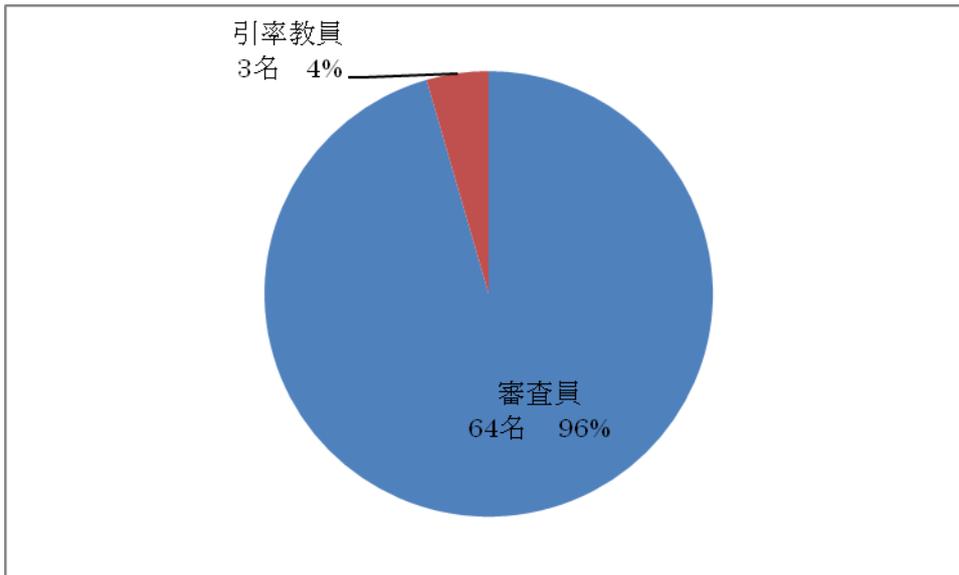
作成：2008年12月12日

作成者：交渉教育支援センター

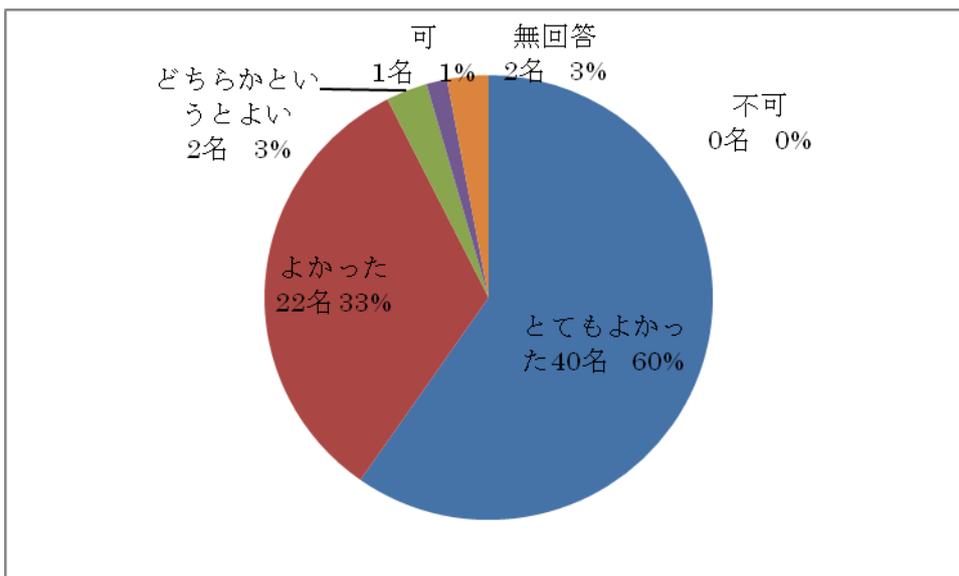
アンケート実施年月日：2008年12月6・7日

回答枚数：67枚

Q1：大会での役割

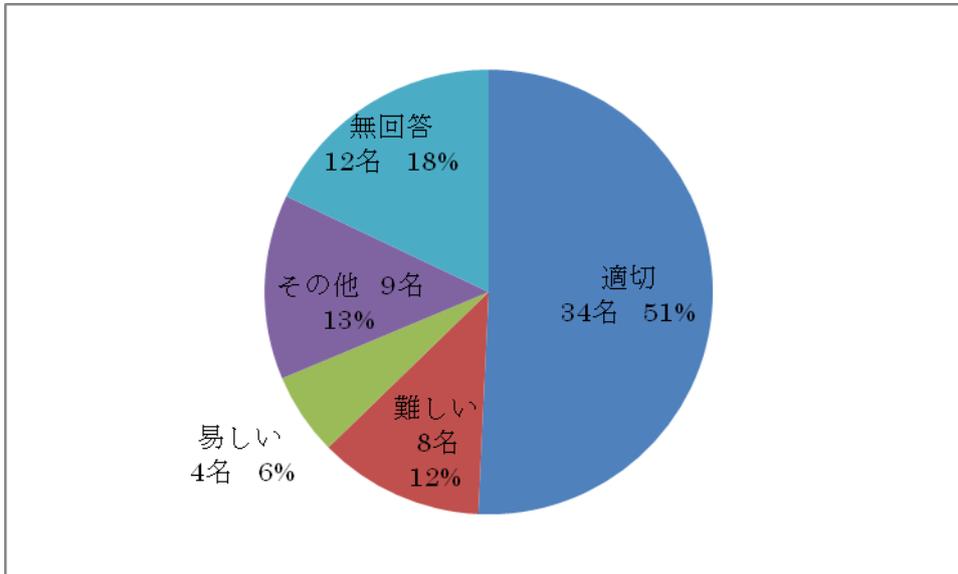


Q2：本コンペティションの評価



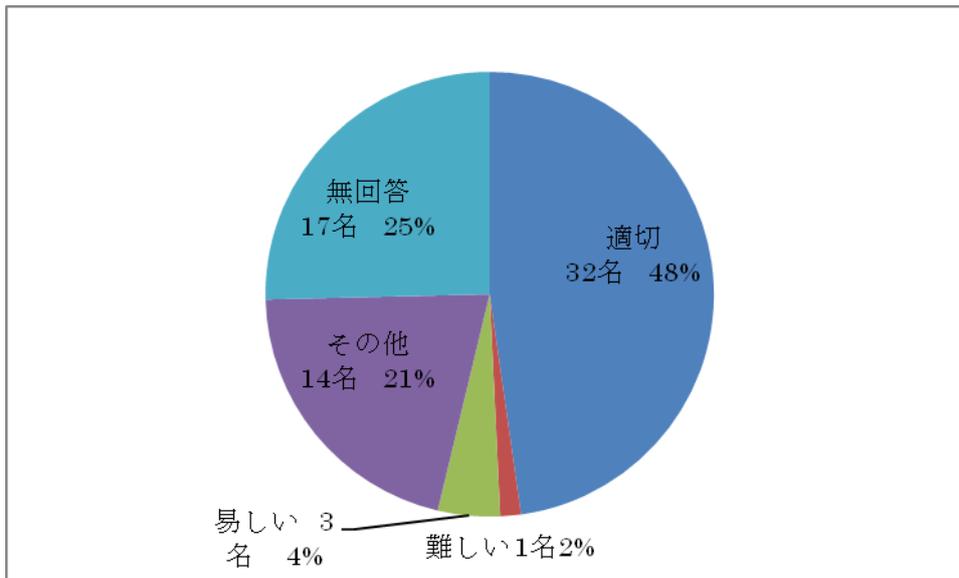
Q 3 : 課題問題の適切さ

① 難易度



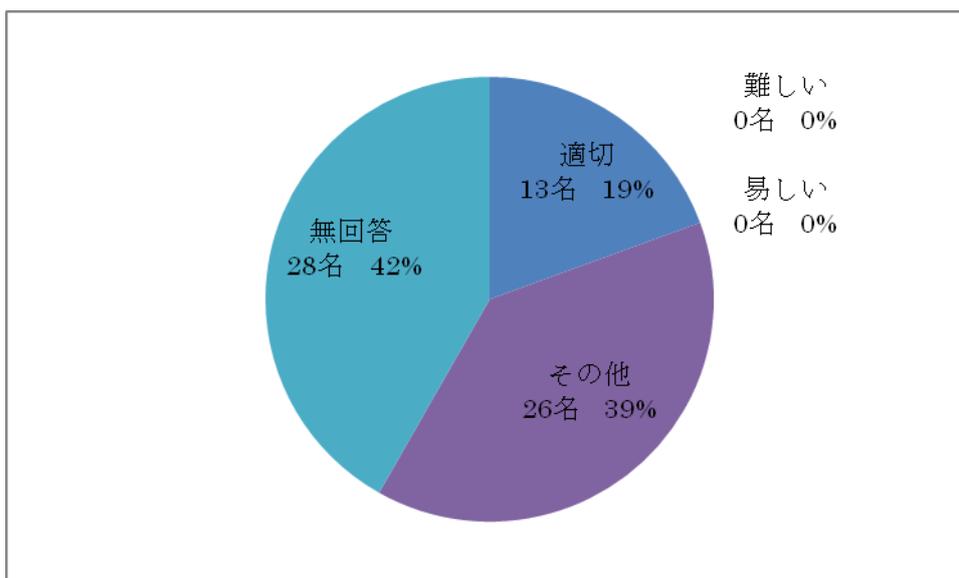
- ・ 仲裁のための事業としては大変良かったと思います
 - ・ 少し高い気もするがそのくらいがちょうどよいと思います
 - ・ 交渉の余地が大きく、工夫の可能性があってよかった
 - ・ 例年よりも問題設定が分かりやすくなったと感じました
 - ・ 例年に比べても非常に適切であった (RoundA)
 - ・ 仲裁の問題としては内容は難しくないと思うが、論点が多くて消化不良だった。
- 交渉の問題については、ファンドやパートナーシップの法的理解が学生には難しかったように思う (理解されていなかったように思う)
- ・ 難しいが、学生が努力して準備することでよい経験になると思う。
 - ・ 交渉においては学生の発想力を試すことができる設定であった

② 事案の内容



- メディア事業はビジネスモデルが複雑で、学生が理解するのに苦労したと思われる
- 学生にとって親しみやすくよいと思います
- Fairly complicated but better-organized than 2007;unequal difficult of facts between teams
- 適度に不必要な事実もちりばめられていてよかったです
- 複雑すぎずよかったです
- I think that the topic was easy to understand.
- Too many irrelevant facts.

③秘密情報（交渉）



- ・両社で差が少なく、苦勞した印象
- ・重要度の差が判断しにくい
- ・項目間の優先順位に少し差があるとよいと思いました
- ・もう少し具体的な指示があってもよかったですと思います
- ・あまり譲ってはならないポイントがなかったため審査はやりにくかった
- ・より遵守条件を増やしてほしい（今回は妥協の余地が多かった気がします）
- ・絶対に譲れないところを作り、あえて決裂になることもやむをえないようにしてみてもどうか
- ・もう少し秘密情報があって良い
- ・ Maybe have less room to negotiate in one or two issues

Q3-2：課題問題に関して改善してほしい点

- ・総じて現レベルでOKでは
- ・もう少し少ない分量でもよいのでは
- ・日本語版の数字表記が10百万米ドル→1,000万米ドルで、適切なものに変えた方が分かりやすい
- ・著作権やファイナンスなど、学部で十分学んでいない論点については議論がかみ合わないことがあるので、前提や条件で内容を明確に絞ってほしい
- ・もう少し論点を減らしてもよいかもしれない
- ・交渉の秘密情報（もし時間内に完了させる場合）
- ・論点がやや多い印象もありますがよくできていると思います。

- ・仲裁にしても交渉にしても学生基準をどの辺におくのか、どのポイントを重視するのは難しい。昨年の事案を元に作られた審査員のコメント、評価方法などを参考にさせて頂いたが事前にこのようなものが審査員間で共有できないものか？

- ・ Round-B については交渉事項を絞り、社長報告の時間を長くしたうえで論理力、報告のうまさを評価すべきと考えました

- ・ Consolidate the facts into one pamphlet rather than hare separate Q&A papers.

Q 4 : 審査票・基準および配点についての改善点

- ・セッション中に、審査基準・項目に対応したメモがあれば審査の客観性がより担保できるのでは？

- ・議論の内容についての項目が少なく、仲裁・交渉で優位に立っても点数がつきにくいように感じました

- ・毎年改善が進んでいてよいと思います

- ・平均をどこに置くのが難しく、課題と思料。

- ・審査員の事前、事後の打ち合わせ時間を長めにしてほしい

- ・ Round-A 準備書面の評価は全出場校の順位をステコミがつけたほうがより公平な評価になるように思います

- ・ Add an elimination round

- ・ More questions on the evaluation sheet would be good to break up the marks more and to evaluate on move specific skills.

- ・ Some aspects is difficult to judge. Such as NO.5 “did the team maximize its interests? Did the negotiations result in a win-win solution”

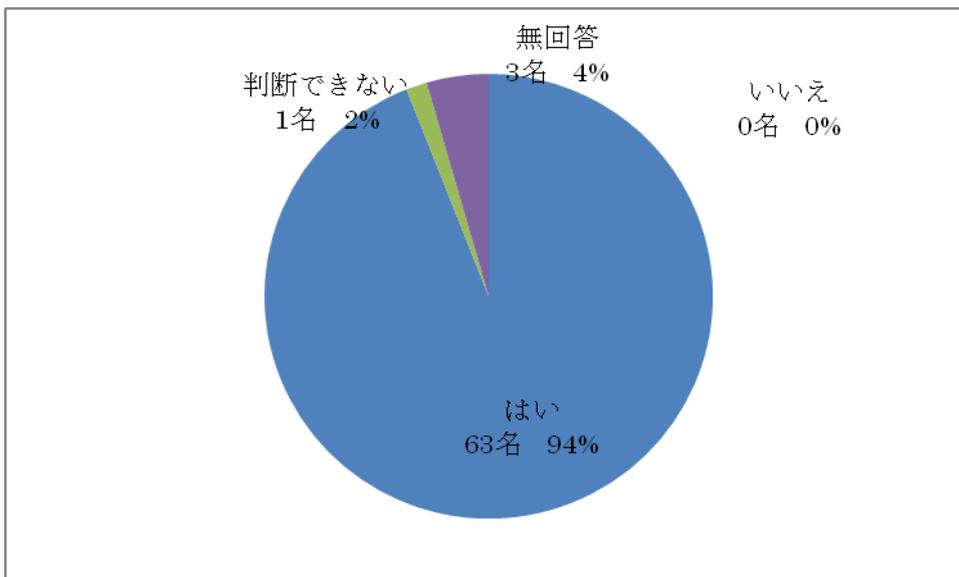
For a aggressive team, it is hard to evaluate. Since they maximize their interest, but the result is not a perfect win-win solution.

- ・ Difficult having multiple questions to consider in the one evaluation issue.

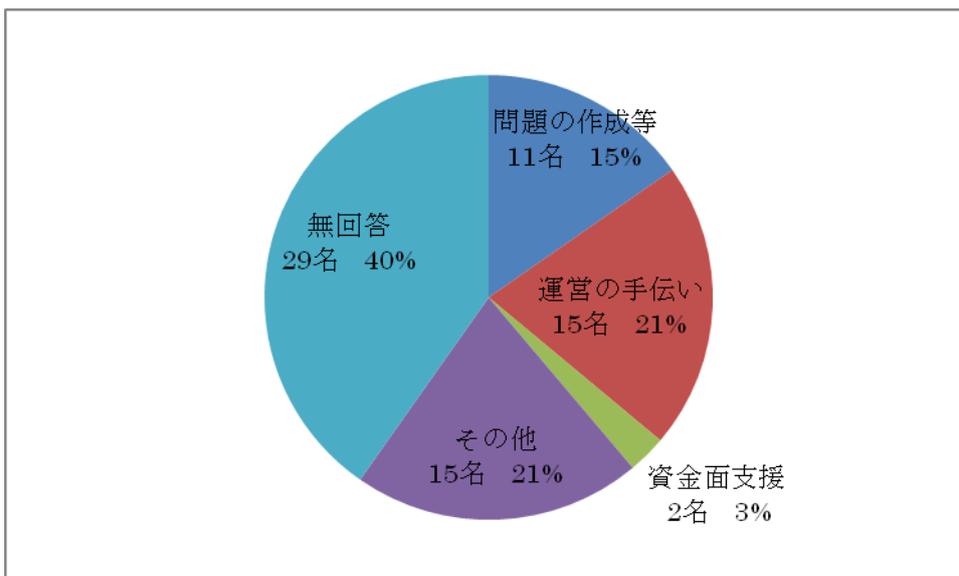
- ・ Scores could be more quantified eg. description for score of 3,4,5,etc

- ・ NO-they were clearly set and I think it worked well.

Q 5 : 本コンペティションは交渉教育に対するインセンティブを高めているか



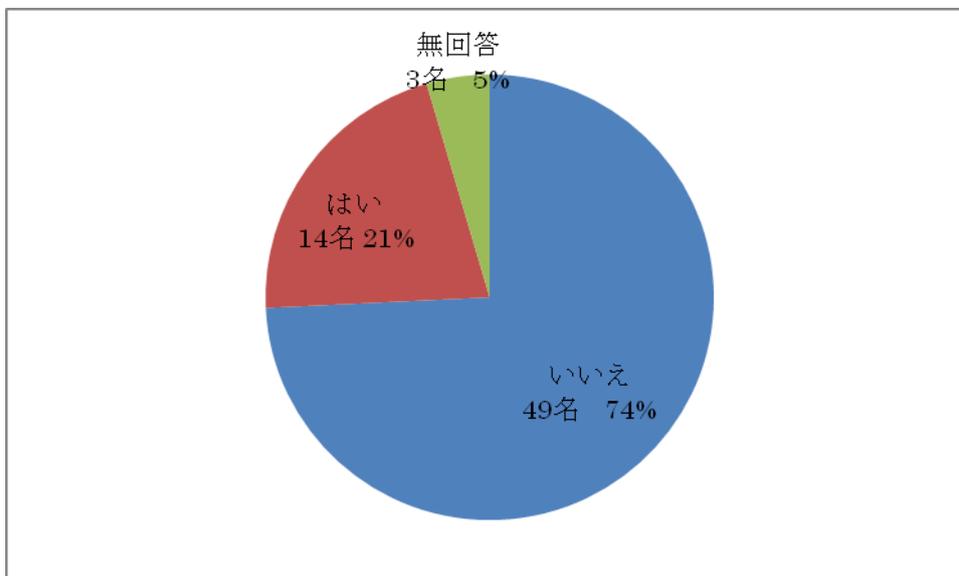
Q 6 : コンペ組織運営に関わる気持ち (複数回答者あり)



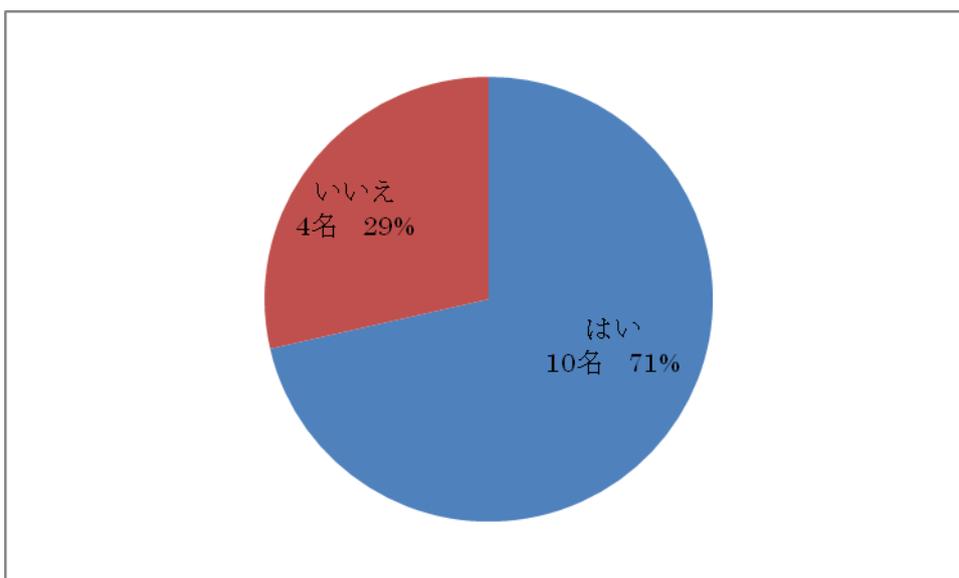
Q 7 : その他感じたこと、来年以降に向けて改善してほしい点

- ・ 契約交渉→ある事業状態の発生→仲裁 という流れの方が事案がシンプルにできるのでは？
- ・ 学生の熱気も強く大変良かったと思います
- ・ 教室へのゲストの出入り：ゲストの集中する部屋での出入りが多すぎる場合がある。
- ・ ラウンドAは、R社として対戦した後、B社として対戦する機会があるとよりよいのではないかと思います。同じ問題で相手方の立場に立つというのは現実にはありえませんが、それ故に貴重な体験かと思います。
- ・ オーストラリア大学以外の外国の学生さんも呼べるとよいですね
- ・ 今年担当した対戦は例年よりレベルが高かったしよく準備していました。毎年とてもいろいろなことを私自身学ぶことができ大変楽しく参加しております。
- ・ OB 審査員として参加させて頂きましたが自分の勉強にもなりました。可能であれば来年度以降も協力させて頂きたく存じます。
- ・ 事案の公平で合理的な解決を探る方向へ向かわせるような工夫がないものかと思います。よい案はありませんか。

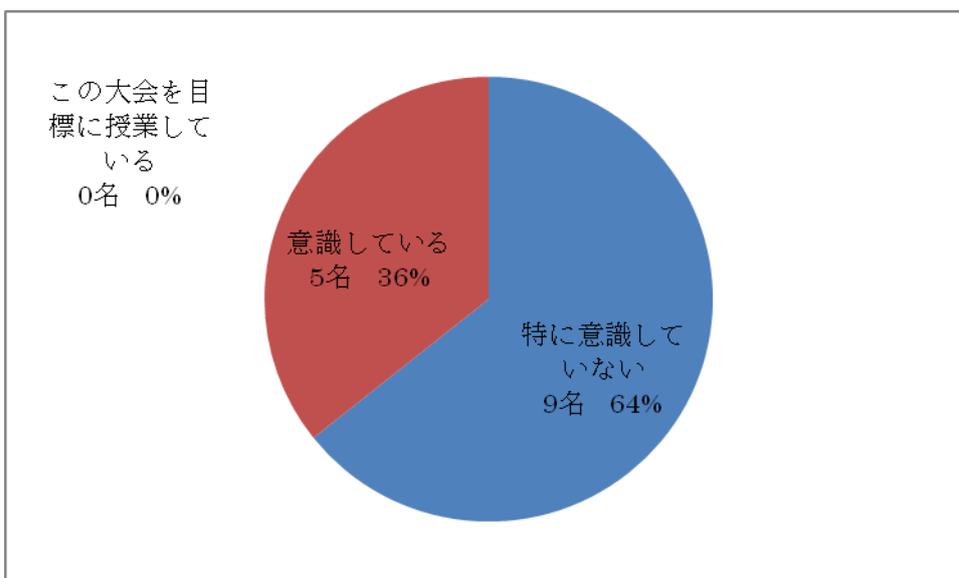
Q 8 : 大学での交渉・仲裁授業担当の有無



Q 8-2 : 模擬事例を使用しているか



Q 8-3 : この大会を意識しているか



090120ver.